

～ 国際研修 ～

ラオス法律人材育成強化プロジェクト（フェーズ2） 「刑事関連法」本邦研修

国際協力部教官
堤 正 明

第1 はじめに

平成27年（2015年）11月8日（日）から同月21日（土）まで（移動日を含む。）¹、ラオス国立大学法政治学部刑事学科学科長を団長とする研修員19名²を対象に、ラオス法律人材育成強化プロジェクト（フェーズ2）「刑事関連法」本邦研修（以下「本研修」という。）を実施した。

第2 研修の背景

ラオスでは、現在、平成22年（2010年）7月から4年間にわたり実施されてきた独立行政法人国際協力機構（JICA）のプロジェクトである「法律人材育成強化プロジェクト（フェーズ1）」（以下「フェーズ1」という。）に引き続き、平成26年（2014年）7月から、「同プロジェクト（フェーズ2）」（以下「フェーズ2」という。）が4年間の計画で実施されている。

フェーズ2では、フェーズ1の成果を土台にして、引き続き、関係4機関（司法省、最高人民裁判所、最高人民検察院及びラオス国立大学）をラオス側の実施機関とし、法令起草能力や法令運用・執行能力の向上、法学教育・法曹養成研修・継続的実務研修の改善及び法令の普及・理解促進能力の向上を図ることを目的としているところ、現在、ラオスの刑事司法においては警察等捜査機関における法遵守が課題となっていることから、上記目的を達成するための活動の一つとして、フェーズ2において設置されたサブワーキンググループ（SWG）の一つである刑事関連法SWGが、刑事関連法分野の法令に関する執務参考資料として刑事訴訟法（捜査段階）のQ&A集を作成しているところである。

第3 研修の目的

本研修においては、刑事関連法SWGのメンバー（裁判官、検察官、司法省職員、

¹ 別紙1（日程表）参照。

² 別紙2（研修員名簿）参照。

国立大学教員，治安維持省職員及び弁護士）を研修員として日本に招き，警察等捜査機関の捜査に関して法遵守を徹底するため，講義，意見交換等を通じて，捜査段階における適正手続や捜査機関相互の協力関係の重要性，被疑者の権利保護等に係る弁護活動等について知見を提供するとともに，上記Q&A集に関して集中的な検討を行い，今後同Q&A集の作成作業が効果的・効率的に行われ，その内容が充実したものとなることを目的とした。

第4 研修の内容

1 講義，訪問等

(1) 講義「分かりやすい教材作成について」

最高検察庁城祐一郎検事から，適切なQ&A集を作成するためにどのようなことに留意すべきかをテーマとして，作成目的を念頭に置くこと，具体的な事例を載せること，質問の作成に当たっては必ず問題の所在を書くこと，論理的な記載を心掛けること等について，講義が行われた。

(2) 講義「国際人権B規約について」，「捜査段階における弁護活動（被疑者の権利保護等）」

宮家俊治弁護士から，国際人権法（刑事法）をテーマとして，自由権規約と人権委員会，自由権規約の条項（刑事手続の規範となるべき条項）等について，また，捜査段階における弁護活動として，憲法の基本構造，基本原理，被疑者・弁護人の個別の権利，具体例に基づく弁護活動等について，講義が行われた。

(3) 講義「捜査の適正確保」

当部湯川亮教官から，日本における捜査の適正確保として，事前規制である強制処分法定主義，令状主義，事後規制である自白法則，違法収集証拠排除法則等について，講義が行われた。

(4) 大阪府警察本部訪問

大阪府警察本部を訪問し，留置施設や通信指令室等を見学させていただくとともに，指紋や血痕採取等の鑑識活動を実演していただいた上，刑事部薬物対策課薬物捜査担当管理官から，大阪の薬物事犯情勢として，大阪府警察本部の組織，規制薬物の種類，薬物の密輸状況，薬物犯罪捜査の特色，捜査の流れ，簡易鑑定等について，説明が行われた。



大阪府警察本部訪問

(5) 大阪地方検察庁訪問

大阪地方検察庁を訪問し、予備取調室、記録倉庫や証拠品倉庫等を見学させていただくとともに、総務部藤川浩司副部長から、日本における検察制度の特徴、検察権の内容、検察官と司法警察職員の関係、適正な捜査を確保する方策等について、説明が行われた。

(6) 意見交換「警察と検察の連携・協力、適正捜査の遵守」

大阪府警察本部刑事部の薬物対策課薬物捜査担当管理官、刑事総務課企画担当課長補佐及び大阪地方検察庁総務部川西薫検事に参加いただき、警察と検察の連携・協力の具体例、具体的な事例に基づく適正捜査の在り方等について、研修員らの質問を踏まえた上で、研修員らとの間で意見交換を行った。

2 捜査段階Q&A集の検討

ラオス側が事前に作成してきた捜査段階Q&A集について、それぞれの設問・回答の担当者から、各設問案の趣旨や実務で問題となっている事柄、各回答案のポイント等を説明してもらった上で、講師陣（城最高検検事、宮家弁護士、名城大学法学部・大学院法学研究科の加藤克佳教授あるいは同志社大学大学院司法研究科の洲見光男教授）からコメントや質問等を頂き、これらを踏まえ、研修員は、講師陣に更に質問したりラオスの現状を説明したりするなど、活発な意見交換等を行うことにより、設問案や回答案の趣旨が不明確な点やかみ合っていない点、削除すべき箇所や追加すべき箇所等、上記Q&A集の改善点を十分に認識することができた。



捜査段階Q&A集の検討

第5 おわりに

本研修において、研修員は、捜査段階における弁護活動（被疑者の権利保護等）、警察と検察の連携・協力、適正捜査の確保等に関する講義、意見交換を通じて、日本における捜査機関が法を厳格に遵守して捜査を実施し、適正捜査が確保されていることについて知見を得るとともに、大阪府警察本部での留置施設や鑑識活動の実演等の

見学，大阪地方検察庁での証拠品倉庫や取調室等の見学を通じて，日本の捜査について具体的なイメージを持つことができ，また，Q&A集に関する検討を通じて，今後の改善点などを十分認識することができたものと思われる。

本研修で得た知見や改善点等を踏まえ，帰国後において，Q&A集作成作業が効率的かつ効果的に行われ，その内容がより充実したものとなることはもとより，研修員がQ&A集作成を通じてラオスの捜査段階における法遵守の徹底を真摯に検討することが期待できるところである。

最後に，御多忙の中，本研修で講義を引き受けていただいた講師の皆様，訪問を受けていただいた大阪府警察本部及び大阪地方検察庁の皆様，長期派遣専門家を始めとする関係者の皆様に，この場を借りて改めて御礼を申し上げたい。

以上

ラオス法律人材育成強化プロジェクト(フェーズ2)「刑事関連法」本邦研修日程表

別紙 1

[担当教官: 堤教官 事務担当: 白井専門官, 岸田専門官]

月	日	9:30	12:30	14:00	17:00
11	8	入国			
11	9	JICAブリーフィング 国際会議室	国際協力部 オリエンテー ション 国際会議室	講義「国際人権日規約について」 弁護士 宮家俊治	国際会議室
11	10	ラオス側発表 弁護士 宮家俊治	国際会議室	講義「捜査段階における弁護活動(被疑者の権利保護等)」 弁護士 宮家俊治	国際会議室
11	11	大阪府警察研修 大阪府警察本部	大阪府警察本部	大阪地方検察庁訪問・講義 総務部副部長 藤川浩司	大阪地方検察庁
11	12	講義「捜査の適正確保」 国際協力部教官 湯川亮	国際会議室	部長主催意見交換会 及び記念撮影 意見交換「警察と検察の連携・協力、適正捜査の遵守」 大阪地方検察庁検事 川西薫 大阪府警警察官 国際協力部教官 堤正明	国際会議室
11	13	①捜査段階Q&A集の検討 名城大学法学部・大学院法学研究科教授 加藤克佳	国際会議室	②捜査段階Q&A集の検討 名城大学法学部・大学院法学研究科教授 加藤克佳	国際会議室
11	14				
11	15				
11	16	講義「分かりやすい教材作成について」 最高検察庁検事 城祐一郎	国際会議室	③捜査段階Q&A集の検討 最高検察庁検事 城祐一郎	国際会議室
11	17	④捜査段階Q&A集の検討 同志社大学大学院司法研究科教授 洲見光男	国際会議室	⑤捜査段階Q&A集の検討 同志社大学大学院司法研究科教授 洲見光男	国際会議室
11	18	⑥捜査段階Q&A集の検討 名城大学法学部・大学院法学研究科教授 加藤克佳 同志社大学大学院司法研究科教授 洲見光男	国際会議室	⑦捜査段階Q&A集の検討 名城大学法学部・大学院法学研究科教授 加藤克佳 同志社大学大学院司法研究科教授 洲見光男 弁護士 宮家俊治	国際会議室
11	19	⑧捜査段階Q&A集の検討 弁護士 宮家俊治	国際会議室	⑨捜査段階Q&A集の検討 弁護士 宮家俊治	国際会議室
11	20	総括質疑 名城大学法学部・大学院法学研究科教授 加藤克佳 同志社大学大学院司法研究科教授 洲見光男	国際会議室	評価会・修了式	国際会議室
11	21	帰国			

ラオス法律人材育成強化プロジェクト(フェーズ2)「刑事関連法」本邦研修

別紙2

1	センタヴィ・インタヴォン
	Mr. Sengthavy INTHAVONG ラオス国立大学法政治学部刑事学科学科長
2	シーワン・ブッタラー
	Mr. Syvanh BOUNTHALA 中部高等裁判所刑事部部长/裁判官
3	トンワン・ケオビライ
	Mr. Thongvanh KEOVILAY 最高人民検察院民事監査局商事・家事・少年事件監査部部长
4	スリポン・ケオスワン
	Mr. Souliphon KEOSOUVANH 中部地域検察刑事事件監査部副部长
5	ブンティ・スリスック
	Mr. Bounty SOULISAK ビエンチャン首都検察刑事監査課課長
6	センスリヤー・ブンペット
	Mr. Sengsouliya PHOUANGPHET 最高人民裁判所国際協力儀典部部长
7	スリデート・ソインサイ
	Mr. Soulideth SOINXAY 最高人民裁判所刑事部裁判官補
8	クアンケア・テムソンバット
	Ms. Khounkhea TEMSOMBATH 最高人民裁判所刑事部専門員
9	シンタヴォン・ピムチャンタポーン
	Mr. Sinthavong PHIMCHANTAPHONE 司法省経済紛争解決センター部長
10	ミットラコン・ソンカムチャン
	Mr. Mitlakhone SONGKHAMCHAN 司法省法務局部長
11	ウドム・サイピアヴォン
	Mr. Oudomh SAIPHAVONG 司法省法務局専門員
12	クンカム・シハラート
	Mr. Khuengkham SYHALATH ラオス国立大学法政治学部刑事学科副学科長
13	ポンサイ・パパスサラ
	Mr. Phonexay PAPHATSALANG ラオス国立大学法政治学部人事総務部部长代理
14	ケオサイジョン・サイスワンナヴォン
	Mr. Keosaychong SAYSOUVANNAVONG ラオス国立大学法政治学部国際関係学科副学科長
15	カムパン・チャンタヴィスック
	Mr. Khamphan CHANTHAVISOUK 治安維持省警察大局捜査警察局副局长
16	パンサイ・タマシット
	Mr. Phanxay THAMMASITH 治安維持省警察大局経済警察局副局长
17	カムスツチャイ・クンシー
	Mr. Khamsoutchay KHOUNSY 治安維持省警察大局犯罪及びテロ阻止部専門員
18	ヴォーラツサミー・スリパパン
	Mr. Voratsamy SOULIPAPHANH 弁護士
19	ニワン・ソムセンシー
	Mr. Nivanh SOMSENGDY 弁護士